

第18回 東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日 時:令和6年11月28日(木)10:00~12:00

場 所:備前市民センター 2階講座室

出席者及び構成員等:委員 11 名(内アドバイザー1 名)、委任状6名

オブザーバー1 名(岡山県)

事務局(備前市 4 名、赤穂市 3 名、上郡町 2 名)、説明員 8 名

議事概要

- 1 開会
- 2 座長の選任
- 3 座長あいさつ
- 4 報告(東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について)

【委員からの意見・質問】

◆ 移住・定住

- 定住のきっかけや要因は、今後定住に繋げていくために市町が力を入れていくところ。
- 上郡への移住者からは、「人が優しい」、「自然が良い」との話を聞くことがあり、課題はあるが持ち合わせているものを活かしていくべきと考える。

◆ 産業振興

- 3 市町それぞれの企業誘致件数を知りたい。
⇒令和2～5 年度の合計で、赤穂市 3 件、上郡町 3 件、備前市 3 件の計 9 件である。
- 働き場が少ないことが転出の大きな要因となっており、上郡町では都市計画制度の制限が強く企業誘致の場所が少ないと聞いている。
⇒製造業の場合は敷地の広さが必要であり、赤穂市でも企業誘致をする場所は限られている。都市計画部局は土地の利活用、商工部局は企業誘致のニーズ、農林部局は農地事案を所管しており、各部局が連携して企業誘致に向けた課題を一つずつ解決していくことが必要である。

【アドバイザーからの意見等】

- それぞれの市町が有する文化や産業に魅力を感じて移住する人も存在する。

5 協議事項(東備西播定住自立圏共生ビジョン(案)(令和7～11年度について)

【委員からの意見・質問等】

◆ 移住・定住・くらし

- 気象条件の良さ、天災が少ないことは全国に向けて PR できるのではないかと。3市町で

人口の奪い合いをするのではなく、交通の不便さは関係機関と協力して改善していけばよいと考える。

- 住んでいると気づかない隠れた資源や魅力について、足元を見つめて小さなものを大きな資源にしていくことが大切である。
- 上郡町と備前市はバス運行もなくのつながりが弱い。住民間でも互いの市町に何があるのかよくわからない。お互いの情報交換が必要ではないかと感じる。

◆産業振興

- 観光分野における日本遺産を活用した取組状況はどうか。
⇒観光においては、今後も引き続き日本遺産を意識してPRや事業に取り組んでいく。
- 市内町内の飲食店舗が減少している。人口減少に加えてコロナ禍を経て大人数での会食の減少、葬式・法事の形態変化が要因と考えている。
- 新たな店舗経営として古民家を改造したレストランやカフェが散見され、インスタ映えを狙ってPRにSNSを活用して繁盛しているところもある。
- 古びたものが残っている赤穂での古民家の活用、備前焼と飲食の組み合わせはSNSでの発信に適していると考ええる。
- 定住自立圏での取組指標として飲食店の店舗数を使うことはできないか。
⇒「飲食店」の範囲、数え方等、指標化できるかできないかも含め事務局で検討したい。
- JapanRailPass(新幹線乗り放題チケット)を外国人のみに販売したことで、国内移動が容易になり、インバウンドの増加につながった経緯があることから、格安や無料などインパクトのある仕掛けを考えて、それをPRにつなげることも一つの方法ではないか。

◆子ども・若者・女性

- 女性目線・子ども目線は、定住に繋がっていく大切なところだと考える。
- 備前市の小・中・高生に「この先も備前市に住みたいか」と尋ねると、手を上げる割合が小>中>高。高校生になると半分も上がらない。岡山や姫路にあるような魅力が備前にはないと言う。備前の魅力を女性や子ども、これからの若者にどう伝えていくか。SNSを通じた発信に可能性を感じる。
- イベント開催を小・中学生に周知して広めたことを踏まえると、こちらから若者に働きかけていく必要がある。若い世代は関わりたい気持ちはあるので、きっかけをつくれば自発的・積極的に輪を広げてくれる。
- 安心して妊娠、出産、子育てができる地域となるために、出産・子育ての費用負担や医療面から如何にバックアップできるかを考える必要がある。

◆情報発信

- 一般の人はホームページをあまり見ないので、広く知ってもらうPRをどうするか。
⇒JRをより利用し、定住自立圏を知っていただく目的で、今年度はフォトコンテストを実施

している。

- 若者はわざわざパソコンを開いてどこかのホームページを見るようなことにはならない。(スマホで)Instagram、X、YouTube、Google マップ等を調べて来る。簡単だから。
- 定住・就職につなげるため、中学２年生・高校２年生を対象に企業プレゼンテーションを実施しており、上郡町にどんな企業があるのか、早い時期での意識付けしている。

【アドバイザーからの意見等】

- 若い女性を外に出さないために、仕事・子育て支援が重要である。子育て支援の項目・あるいは部会がないのが非常に残念である。
- 育休退園は安心して子育てができるために何とかすべき課題である。赤穂市では兵庫県で唯一育休退園させている。
⇒子育て支援については、今年度、3市町の担当部局による情報交換会を開催し、施策や事業の共有、各市町が有する課題解決に向けた意見交換を行ったところである。現時点で部会の立ち上げには至っていないが、横のネットワークづくりは重要なので事務局としても後押ししていきたい。
- こども基本法の施行に伴い、自治体は子ども・若者の意見を取り入れながら、こども計画を作成することになっている。
- 子ども・若者の意見を取り入れる、ニーズを受けとめる発想が大切である。
- ワークショップを開くと、面白い発想の意見が出てくるし、子どもの育ちにとっても意義があることから、子どもにも参加してもらう、子どもを巻き込んで事業を展開していくことが重要である。
- 備前市が本年度新たな組織として整備した「こどもまんなか課」のように、これからは子どもをまんなかに考えることが施策の中心になってくると考える。
⇒若者の視点について、備前市では今年度から来年度にかけて総合計画の見直すこととしており、若者の視点は不可欠であると十分認識していることから、若者を集めてのワークショップを開催したいと考えている。
- 子育てしやすいまちとしての PR について、例えばアニメーションを作成し YouTube で発信するなど SNS を使っていないと広がらない。ひと工夫が必要である。
- 人口減が税収減につながり、そのことが公共事業の縮小や行政からの様々なサービスが提供できなくなっていく状況を想定しながら本気で取り組むことが必要である。
- 増やすことは難しいが、減ることを止める発想で転入者を増やし、転出者を減らすこと。

(以 上)